オチリ
WORKS

甚者magazine

Omeri Works

need
more

Introduction

マイクを握ってから何年経ったんだろ？気付けば40代も最後の歳になった。
19〜20歳位の時に自分の生き方をボンクラなりに真剣に考えて足掻いてた時、
金を稼いで生活して行く為には自分が興味が湧かない物事だとしても多少の事は我慢して働くっていう極当たり前の物事に
疑問しか感じてなかった俺は、自分自身が魅力を感じられない職に留まる事が苦痛で苦痛でしょうがなかった。
漠然と好きな事を生業に商売でも出来たらイイなぁ〜なんて思いながらも明確なビジョンなんて全然無く、
ナンとなく自分の頭の中にある不確かなカタチにしがみつきながら定職にも就けずブラブラとしてたモンだから色んな人に迷惑を掛けてたし、
ヨク「お前はガキみたいな事ばかり言ってどうしようもねぇ駄目なヤツだなぁ」って言われてた。まぁ実際に漠然とした夢ばかりに固執してて
何一つとしてカタチにも出来てない凄ぇイイ加減で駄目ダメなクソ野郎だったのは紛れも無い事実だったと思う（苦笑）

そんな俺の幼少期は近所のドブ川や海で釣り三昧の毎日。10代はモトクロスや単車に跨がってる事が多かったんだけど、
この歳になって色々と冷静に振り返ってみると俺の人生の中で一番大きな出逢いはスケートボードと釣りだったかな。
釣りに関しては物心がつく前からやってたんでキッカケとか全く覚えてないんだけど、
スケートは1985年の映画BTTFでマイケル・J・フォックス演じる主人公のマーティ・マクフライが
トラックの後ろに掴まってスケートで街を走り抜けて行くシーンを観て猛烈にカッコイイ！！って思ったのが最初だったんだけど、
当時は金なんてモンは全く持ってなかったしスケートボード自体を売ってる所なんて全然無かったから、
ドコからかパ◯って来て無駄にチクタグしまくりからの原チャリに掴まって時速70キロ位で第二湾岸をカッ飛んで走ってたんだけど、
このスケートボードとの出逢いがアメリカを中心とした日本以外の国への憧れと色んなカルチャーへの扉を開く入り口だったと思う。

スケートのビデオから流れる音楽やファッション、グラフティや街並みから物凄く影響を受けて、
1人で家に居ると下手くそな絵を描きマクってたし、カセットデッキの録音＆ダビング機能を駆使して
お気に入りのMIX TAPEみたいなのを作ったりして、今の俺のスタイルを語る上でナンだかんだ一番の基盤となっているストリートカルチャーを
勝手な独自目線で積み上げてた。そう勝手な独自目線でね（笑）この勝手な独自目線ってのが今の子達と違う所で、
俺がガキの頃は今みたいに簡単に物事を調べられるパソコンもスマホもSF映画の世界のアイテムみたいなモンで
全くもって夢の世界のモンなんで、自分がアメリカのカルチャーに触れられるのはポーリング場やプールバーにあるジュークBOXから流れる映画やPVなんかの映像や音楽、
それ以外は海外の雑誌を扱う本屋さんやレコード屋さんとやたらと爽やかな潮にガタイが良くておっかない兄ちゃん達が居るサーフショップ位だったから（笑）、
とにかく自分の足で色々と出向いて行って興味のある物事を必死で探して貪るしかなかったんで
正解が全く分からないまんまの勝手な独自目線だったんたよね。しかも東京ならまだしも80年代の千葉だからね。
今みたいにムラサキスポーツなんてないし、スケートのビデオで流れてた音楽を扱うレコード屋さんなんて全然なかった。
だから王道や定番と呼ばれるカルチャーに辿り着けるまでも東京と比べたら2〜3年は遅れてた気がするし、
今思えばチャンと理解も出来てなかったよね（笑）

そんな80年代をまだまだ田舎感満載の千葉で過ごしながら、とにかく遊びで飯を食う！！（自分が夢中になれる大好きな物事）
って誓って踏み込んだ90年代にスケートチームを立ち上げたり、そこからスケボー屋さんになったり、
ラッパーになったりして大きな野望と勘違いを武器に21世紀を迎え、色んなリスクを背負って色んな想いを擦り減らしながら
2002年に12STADIUMをOPENさせ、2013年までマイクを握って
自分の主張や地元意識、カルチャーやしがらみに良くも悪くも縛られながらやって来た。
でも俺が36歳の夏に女手一つで俺と姉ちゃんを育ててくれた母ちゃんがパーキンソン病症候群に倒れた。
好き勝手に生きて来た俺の人生にブレーキを掛けてくれた。今のまんまの自分のやり方じゃ母ちゃんの面倒すらマトモに見れない。
それどころか自分自身の残りの人生も関わる全ての人達への礼儀も責任も果たせない！！って母ちゃんの病気を機に改めて気付かされたし思い知らされた。そこから母ちゃん
の介護は11年続いて精神的にも体力的にも金銭的にもかなり追い込まれた過酷なモンだったんだけど、
俺が一人前の野郎として！！社会人として！！日本国民として！！ピッと立てる様になる為に必要なモンが全部と言ってイイ程に凝縮された
濃密な時間だったと思うし、自分の身体を張ってそういう時間を作ってくれた母ちゃんには本当に感謝してる。
胃瘻を駆使した寝たきりの状態だったんで「早く楽にしてあげればイイのに」って言われたり「もうそんなに長くないから」って心ない言葉を
親族からも施設の看護師さんからも言われた事もあったんだけど、
それでも母ちゃんがタダ寝たきりで息をし続けてくれていた時間があったからこそ、
俺はダメな自分から抜け出せたと思ってるし、今の大事な家族と笑顔で暮らせてると思ってるんで
あの11年にも及ぶ介護の日々には不思議と後悔はないんだよね。

だからこそって訳じゃないんだけど、俺は俺の思う着地点に向けて人生の節目節目にキチンとしたカタチを残す事に拘りたい。
昔は良くも悪くも自分の偽りない気持ちを音楽に込めて残して来た。大したレベルのモンじゃないんだけど色んな人達に聴いて貰ったし、
少なくとも12STADIUMに昔から来てくれてる奴等には色んな影響も与えたと思う。
まぁ今聴いても相変わらずダサイ感じなんだけど（笑）やっぱり自分の想いをカタチに残すってのは今までの俺の音楽を聴いてくれてた
人達にも、俺の家族にも、一緒に足掻いた仲間達に向けても、大事な大事な礼儀でありケジメな気がするんだよね。
千葉に拘り吠えマクってたとっちゃん坊やが笑顔溢れる場所に着地して行こうとする「様」をチャンと魅せる事が
俺をサポートしてくれた全ての人達への礼儀でありケジメだ！！って本気で思うから、
今の俺には音楽で想いを残せるだけのスキルも才能もそれを補うだけの時間も失くなって来てるから、
せめて今の俺に出来る表現方法である写真と絵と言葉のチカラを駆使して、
Mr.OMERIとしてリリースした正規盤の1stALBUM THE STATUS QUO、2nd fomyself...、
3rd REAL STREET BLUES、4th THE BLACK MARKET 、5th KING OF CBに続く
6枚目のアルバムのつもりで40代最後の年をドレッドにして25年のこのタイミングでZINEを作りました。
今の俺が何を想い、何に影響を受け、どう笑い？どう生きているのか？を全部ではないんだけど変わらずサポートしてくれてる皆さんにお届けします。
音楽の時同様に全てにおいて才能もスキルもないんだけど相変わらず暑苦しい情熱とYELLだけは無茶苦茶詰まってるんで、
昔からのリスナーさんは勿論の事、今の10代20代の若い世代にも何かを感じ取って貰えたら嬉しいです。
みんなが笑顔で暮らせる為に...
ボンクラ達のブルースをガンガン響かせて行きたいって思っております。

偏屈ナ凡人

自分が大した才能もスキルも持ち合わせていない凡人だって事は
長い事好き勝手に色々とやって来た自分が誰よりも一番解っている。
努力しても埋められない決定的な差や突き通す事が許されなかった
自分の生活環境なんかも全部ひっくるめて自分が表現者として
存在し続けられる様な人間じゃないって事は
圧倒的な事実であり現実だって解ってる。

だけどね…
そんな現実を突き付けられても尚、納得が行かない自分が居るんだよ。
抑えられない衝動みてぇなモンが自分の中々で次から次へと
沸々と燃え滾って収まりがつかないんだよ。
そしたらさぁ〜幾つになってもジタバタと足掻き続けて
自分が此処に居る！！って事をどんな小さな事でもイイから
表現し続けるしかねぇじゃん！？
千葉に居るとっちゃん坊やがまたなんか吠えてるよ！！って言われたってイイから、
自分の生き様を自分の家族や仲間、
少しでも俺と関わった事のある次の世代のヤツ等にも
チャンと目に見て分かるモンを残しときてぇじゃん！！

人生には妥協や挫折も必ずある。
辛くて逃げ出してぇ時だって時にはあるんだけど、
それでもテメーを信じて前に前に出ようとする情熱が少しでもあるなら、
今よりホンのチョットでもイイから前に出て、
自分が思い描くカタチに少しでも近付ける様に突っ張らかって生きるのも
全然悪くねぇんじゃねぇかな？なんて俺は思うから、
これから先の自分自身に対しても
このZINEが本気で贈るYELLになってたらマジで嬉しいんだよなぁ〜

人生は一度きり
どんなに足掻いて騒いでみたって死んじまったら
殆んどの人間は月日の流れと共に忘れさられて行く。
どんなに愛した人間ですらも写真や動画を見てるだけじゃ
温もりも感じられず溢れ出てた感情ですら風化して行く。
本当に悲しい事なんだけどそれが現実。

でもね…
俺は無茶苦茶寂しがり屋さんだから生き続けてる人達に
少しでも長い間、忘れられない様に足掻きたいんだよ。
俺みたいな人間が存在してた事実を色んな人のハートに刻み込みたい。
俺はBiggieでも2pacでもJohn LennonでもBob MarleyでもJimi Hendrixでもない。
坂本九や尾崎豊、太宰治や高倉健には成れない。
でも、だからって人の記憶からあっさりと消え去っちまうのは納得行かない！！
せめて関わり合いのあった人達には忘れて欲しくないじゃん？
だから気力と体力と情熱が痩せ細る前に俺の出来る事で少しでも多くの感情をカタチに遺したい。
ヘッポコだって構わないから今の俺に出来得る事ならナンでもやりたいんだよね。
自分のやり方で…
マジ、タダの偏屈な凡人だけど、オッサンはギリギリまで足掻きます。

#てなphoto

It all started...

色んなモンを抱えながら夢に向かって日々を過ごして行くのは誰にとっても簡単な事じゃない。だからトラブルや問題にブチ当たって恐くなったり諦めたり挫折したりして逃げ出してしまいたくなる事もあると思うんだけど「自分の生き方や夢を誰かに邪魔されて諦める様な事は絶対にしたくない！！」って、てなが真っ直ぐな目をしながら俺に強く主張した2018年の夏。

21歳だったオンナの娘からチョイとケツを蹴っ飛ばされた様な感覚を抱いたのをヨク覚えてる。最初は軽いノリで始まった撮影だったんだけど、なんかコイツと軽いノリでハンパに向き合うのは違ぇなって本気で思った。本気で向き合わなきゃ俺の生き方自体もコイツには伝わらないって思った。そういう本気の色んな想いが交差して始まった「てなphoto」。

年の差26歳の親子の様なコンビの俺達が実際に思い描く着地点は、見ているみんなが想像するモノとはきっと掛け離れたモノだとは思うんだけど、俺等の中で明確に見えているその着地点を目指しながら、子供から大人へと足掻きながら成長するオンナの素顔を俺が千葉で積み上げ拘る執念と重ね合わせながらレンズ越しに少しでも長く残して行きたいなぁ〜と思ってたりする。明日イキナリ状況が変わり今の撮影スタイルに終わりが来るかも知れないけど、今までカメラに収めて来た日々はきっと俺等の人生に大きな意味を与えてくれるモンだと確信している。人と人との関わり合いってのは年齢性別問わず、そういう熱いモンで在りたい。

#mista12photo

#てなphoto

#mista12photo

Happy

Drawing

ガキの頃から絵を描くのが大好きだった。
小学生の時はマザー牧場での乳搾りの様子をダイナミックに描いて千葉市かなんかのコンテストで佳作を取ったし（笑）好きな漫画の主人公なんかを真似てヨク落書きしてた。
中学生になると学生カバンとか机、教科書なんかに色々と落書きしてたし、スケボーを始めた頃にはデッキテープに下手糞なgraffitiをポスカで描いたりスプレー缶を片手に壁にも描きに行ったりしてた。
マジで絵を描くのが好きだった。

だけどね、本当に好きだったんだけど基本的に全然上手くなかったから絵で自分を表現するなんて事は一生出来ないと思ってたんだけど、昔からライブのフライヤーとかTシャツのデザインを一緒に作ってた1Qがiｐadを駆使して自分なりのイラストを描いてるのを見て「あっ!?この方法論を自分なりに消化すれば俺でも絵で表現出来る様になるかも?」って本気で閃いたのよ！！俺ならこうする！！とか、こうやれば面白ぇモンが絶対に出来る！！ってドンドンとアイデアが浮かんで来てさ... なんだか自分を表現し続ける為の武器を手にした感じでスゲー嬉しかった！！マジ、キッカケを作ってくれた1Qには感謝だわな。

それから時間があれば事務所とか家で色んなLOGO作ったり自分や近くの人間の絵を描いたりしてたら結構な数になって来て段々と自分の思い描くカタチを表現出来る様になって来たんで、今回ZINEを作ろうって思えたのも写真と絵っていう俺を表現する為の新しい武器を手に入れたからなんだよね。

昔からアイデアだけは腐る程あるタイプだったんだけどイマイチ才能とスキルが足りない感じだったから（苦笑）基本的には誰かのサポートなしでは表現しきれなかったんだけど、時代が変わり技術の進歩が進み俺に足りないモノをカバーしてくれるモノが増えて来たお陰で俺も自分の表現の幅を広げられる様になったんだよね。後は自分自身の行動力とアイデアとオリジナリティの問題だと思うから、俺の方法論でもやり方次第だし、良くも悪くもオリジナリティだけは勝手に溢れ出ちゃうタイプなんで今後の自分自身にも期待してたりしております 笑笑。

て事で、今回は俺の好きなハリウッド女優を中心に細かなモノも色々と描いて所々に散りばめてるんで文章と写真と一緒に見てやって下さいな。

Halle Berry

俺の中で一番タイプのアフリカ系の女優さん。
演技良し！！顔も良し！！脱いで良し！！の三拍子揃って文句なし！！
アカデミー主演女優賞を取った「チョコレート」でのシビアな役と
「キャットウーマン」とか「X-MEN」なんかでの役とのギャップも好き。

そういえば...

オメリworksとしてチョコチョコとプリント物のTシャツとかパーカーなんかも作ってるんだけど、その中で一番評判良かったのが映画「天使にラブソングを2」を元ネタにした「OH HAPPY DAY」シリーズ。今回は勝手にローリンとウーピーに着て貰ったり踏ん付けて貰った。

単純に俺が大好きな映画で歌われてた讃美歌を手描きでカタチにしたペタペタなヤツなんだけど、きっと最終的に誰もが願ってる物事の本質ていうのは笑顔溢れる日々じゃないか？って思ったりもしてるんで同じ様な感覚を共有出来る人は是非手に取ってみて下さいな。

MY FAVORITE MOVIE
SISTER ACT2:

OH FUCK'N DAY

2019年の令和元年は良くも悪くも
「なんて日だ！？」の連続だったモンだから必然的
に出来上がっちゃった「OH FUCK'N DAY」。
人生は驚きの連続だから面白ぇと思うんで
良い事も悪い事もポジティブに受け止めて
乗りこなしてやろう！！

鉾々たるメンツがアメリカ国家斉唱してるけど
ホイットニーが歌う1991年のスーパーボールでの国家斉唱が
今まで聴いた中で一番鳥肌が立った国家斉唱。
当の本人は2012年に亡くなっちゃってるけど
未だにYouTubeで1991年の国家斉唱を観ちゃう俺...
響くんだよなぁ〜
R.I.P

Whitney Houston

未ダマダ...

Am G D Am G D

Am Em G D
クソみてぇに面倒臭ぇ世の中
Am G Em D
這いつくばった日々、俺はまだ
Am Em G D
堪えきれねぇ怒りから、やたら
Am G Em D
苛ついてばかりでマジ嫌だな
F Em F Em
ハラワタはまだ、煮え繰りかえり
F G Em D
どんだけ月日が経った事か？
F Em F Em
未だガキかな？怒りだけタダ
F G Em D
吐き出すだけじゃまだまだなのか？

Am E♭ G D
ど〜んな〜時間を〜
F G C D
歩いて乗り越えて今のまま〜
Am E♭ G D
ま〜だ〜ま〜だ〜
F G C D D
クソガキのままで居たい俺が...

Am G D Am G D

Am Em G D
クソみてぇに面倒臭ぇ世の中
Am G Em D
這いつくばった日々、俺はまだ
Am Em G D
堪えきれねぇ怒りから、やたら
Am G Em D
苛ついてばかりでマジ嫌だな
F Em F Em
何処から何処が？俺のボーダーライン？
F G Em D
越えちゃイケねぇラインの先の未来
F Em F Em
未だ霞んで...ボヤけて見えねぇ...
F G Em D
辿り着ける場所はまだ先か？

Am E♭ G D
ど〜んな〜時間を〜
F G C D
足掻いて乗り越えて今はまだ〜
Am E♭ G D
ま〜だ〜ま〜だ〜
F G C D D
クソガキのままで居たい俺が...

F G Em Am F G C D
F G Em Am F G E♭

Am E♭ G D
ど〜んな〜時間を〜
F G C D
歩いて乗り越えて今のまま〜
Am E♭ G D
ま〜だ〜ま〜だ〜
F G C D D
クソガキのままで居たい俺が...

F G C D D
クソガキのままで居たい俺が...
F G C D D
クソガキのままで居たい俺が...
F Em G Am
クソガキのままで居たい俺が...

Throw it for 1992

歌ヲ唄ウ

この街で暮らして来た日々に
嘘偽りだけはないはずと
頑なに信じた裏路地の
クソの足しにならないプライド
拘り続け、意地になってた
その事自体に縛られてる
自分に気付かず、苛つく事も
何度も何度も繰り返した

だから今はこれからはノンビリと
肩の力抜いて歌を唄う
大事な人達の微笑みと
腹の底から笑える様に
歌を唄う

答え探しに足掻いてる日々
遠回りなんて当たり前と
地下深く潜り込んだ道の
道の途中で腐った奴等
振り払うまで、気付けずに居た
大事な人達も傷付ける
そこに居ちゃまた、闇に埋もれる
笑えない日々に侵されて行く

だから今はこれからはノンビリと
肩の力抜いて歌を唄う
大事な人達の微笑みと
腹の底から笑える様に...

だから今はこれからはノンビリと
肩の力抜いて歌を唄う
大事な人達の微笑みと
腹の底から笑える様に
歌を唄う

journey旅travel旅行trip

ココ6〜7年かな？物凄い勢いで沖縄に旅をする様になったのは…

最初、テレビドラマで大好きだった北の国からの舞台だった北海道と瑠璃の島やDr.コトーの舞台になった沖縄でスゲー迷ったんだけど、単純に旅に出るのが1月だったんで純粋に身体的にキツくない暖かい沖縄を選んだのがキッカケなんだけどね…笑。

でまぁ、初めての沖縄でイキナリ離島はハードル高ぇなぁ〜って事で、琉球王国の名残りと米軍基地に出入りするアメリカ人が生み出した独特なAmerican Cultureが混在する沖縄本島に行ったんだけど、最初の沖縄のイメージは空港からまず那覇に行ったモンだから千葉より全然都会じゃね？だった 笑笑。

まぁ街全体の広さや駅なんかの規模を比べりゃ千葉の方が都会なんだろうけど、あの独特の文化に近代的な街並とゴチャゴチャとした危うさの同居した感じや、沖縄本来の食文化にプラスして本土からの移住者を中心としたレベルの高いCAFEやパン屋さんなんかの個性溢れるお店が点在してたモンだから結構な勢いでハマっちゃって、千葉に帰って来てスグに飛行機のチケットを抑えちゃってた位の勢いだからね 笑。 マジ、俺の中で沖縄は相当なHITだった。

そんな感じで沖縄が大好きになっちゃったモンだから最初の一年で4〜5回沖縄本島に行ったんだけど、1回目は那覇を中心とした観光地を回って終わっちゃったんで、2回目位から釣竿も持って行って、中部に滞在しながら中部から北部の入り口ら辺までの地域の美味しそうな店やら釣れそうな川や海に立ち寄りながらウロウロ、3回目は北部に泊まって北部をレンタカーで走り回って海の綺麗さと大自然に無茶苦茶感動しつつ釣れそうな川でルアーを投げてたんだけどバイトはあるんだけど釣れず… みたいな感じで、4回目位から段々と釣りたい欲が大きくなって来て持って行く釣り道具の量がやたらと増え始める 笑。

そんな感じで観光モードから釣り人モードに変わって来ちゃった俺は、都会をウロウロするよりももっと大自然の中で釣りがしたい！！もっと綺麗な川や海で見た事もない様な魚を釣ってみたい！！ってモードに入り、より自然に接する事が出来るであろう離島に気持ちが傾く様になって遂に石垣島行きのチケットを取る事に…

そんな感じで釣りをキッカケに沖縄本島から八重山諸島に旅先を変えて行くんだけど、沖縄本島には沖縄本島の魅力が溢れまくってて、最初の一年で釣り以外にも「やちむん」に目覚めて器だけを買う為に沖縄本島にも違うカタチで今も通い続けてるんだけど、やちむん（沖縄の方言で焼き物）の話はまた次回の機会があればその時に書きたいんで今回はこのまま八重山諸島の話にしようと思います 笑笑。

八重山諸島

確か初めて石垣島に行ったのは6月初旬の八重山ら辺が梅雨の終わり位の時期で空港に着いたら雨がガンガン降ってて、スゲー蒸し蒸し暑々で
サングラスは曇りまくって物凄く不快だったのを覚えてる 笑。しかも着いたのが午前中だったから宿にもチェックイン出来なかったから
雨の中レンタカーで島を一周してみたんだけど雨で景色は良くねぇし沖縄本島みたいに立ち寄る様な店もないしで全然面白くねぇじゃん！！
ってのが第一印象 笑。更に滞在中の天気予報を見れば全部雨だし、下調べもしないで適当に夕飯を食いに行った所の石垣牛は全然美味くなくて
テンション下がりっぱなしで酒をガバガバと呑んで宿でテレビ観ながらフテ寝したんだよなぁ〜笑笑。
で、着いた日はそのまま早く寝ちゃって翌朝6時前位に小便で起きたら外は昨日までの天気が嘘の様に晴れ渡っててテンションがプチ上がった！！
後に石垣島での定宿になった所の屋上でパンツ一丁の大の字で無駄に日焼けしたのが凄い気持ち良くて「来たぁ〜」って騒いだなぁ〜！！
そっからは八重山諸島の最大の魅力である石垣の離島ターミナルを拠点に竹富島、黒島、小浜島、波照間島と渡り、原チャリを借りて島を走り回ったのが
最高に楽しかったんだけど、俺的には観光よりも釣りがしたい人なんで石垣島でそれっぽい川や海でルアーを投げまくってコトヒキを釣ったんだけど、
そこはホラ、知る人ぞ知る黒極者達代表の俺！！笑。
こんな大自然溢れるフィールドで手の平サイズの魚1匹釣って満足なんか出来る訳もなく
気持ちは段々と未だ未踏の東洋のガラパゴス西表島に気持ちが向いて行ったんだよね。
で、最初の一年位で4回位石垣島拠点で西表島にも通ってたんだけど、最初の2〜3回はとにかく自力で釣れそうな場所を探して
自分の釣りのスタイル（水面に浮くルアーのみを使って釣る）で色々と試してたんだけど、
とにかくフィールドがデカイし狙ってるマングローブジャックって魚が実際どういう場所に潜んでるのか？も全然分からないモンだからずっとボーズ 苦笑。
何回通っても全然釣れないモンだから今まで頼んだ事なんて一度もなかったプロのフィッシングガイドを頼んでみよう！！
ってなって、色々と調べて連絡したのがONE OCEANの永井船長。
そう、俺のInstagramとかブログ見てる人ならヨク耳にする船長だった訳よ！！
マジ、船長との出会いが千葉に拘り続けて千葉から出ずに気張りまくってた俺の価値観を釣りを通じて緩くほぐしてくれた張本人であり
西表島を俺の心の拠り所？心の故郷？にしてくれたキッカケを作ってくれた人なんだよね。
そんな今の俺のライフスタイルを語る上で外す事の出来ない東洋のガラパゴス西表島。
この機会に少しでも色んな人に知って貰えたら嬉しいなぁ〜って思ってます。

西表島

西表島

西表島に初めて行ったのは彼此6年位前。西表島には東部の玄関口となる大原港と俺が拠点としてる西部の上原港の2つの港があるんだけど、俺が一番最初に上陸したのは石垣島からのフェリーだと多少近くて1日の運航数も多い大原港（と言っても40分前後）だった。それこそ右も左も分からない状態だったんでレンタカーを借りて上原港の方まで50分位掛けてドライブしたのを覚えてる。

とにかく何もねぇなぁ〜ってボヤキながら右に東シナ海、左に圧倒的なジャングルってな景色の中をレンタカーでひたすら走ってたんだけど、天気もあんまり良くなくてイメージとしてはどんより暗い島って感じだった 笑笑。華やかなリゾート的なモンも見当たらなかったし立ち寄る様な店もなくて正直な話「ココはドコ見て歩きゃイイんだ？」ってマジで思ってたんだけど、基本的に俺が西表島に足を運んだ一番の理由はマングローブジャックをトップで釣りたい！！って言う単純明快なモンだったんで、とりあえず釣りが出来そうな川だったり河口みたいな所に車を停めては片っ端からルアーをキャストしつつ西部に向かって走ってた訳なんだけど、正直な話これだけのジャングルだったら半日もあれば1匹位はマグレでもスグに釣れんだろ？的な安易な考えで挑んでたら、西表島に「舐めてんのか！？」ってな勢いで返り討ちされた所から俺と西表島との闘いが始まったんだよね 笑笑。だから、最初の頃は楽しくて西表島に通い始めた訳じゃなくて釣れないのが気に入らなくて意地でも釣ってやる！！ってムキになって通い始めた感じだったんで、この頃は西表島の良さなんて全く分からなかったんだよね 苦笑。

で、この最初の西表島では結局マングローブジャックを釣る事なんて出来ず、どうにもこうにも悔しい気持ちだけが残っちまってたんで、確か2ヶ月後かなんかにスグ島に渡ってまた陸っぱりから攻めてみたんだけど全く釣れず、その翌月とかにも島に渡り今度はカナディアンカヌーだけ借りて本格的に攻め始めてみるも、全然慣れないカヌーの手漕ぎの操船だけでも苦戦してる所に干潮を迎えでドンドンと干上がって浅くなる川で釣りをする事自体が無理になり、無茶苦茶機嫌が悪くなって帰って来たりしたんだけど、幾らクソ広いジャングルの中で地形も魚の居る場所も分からないからって、こんなにも釣れねぇモンなのか？ってなってたんだけど、それがまたマジで気に入らなくて次は西表島に泊まってプロのガイドを頼んで意地でも釣ってやる！！ってなって、確か4回目の西表島でONE OCEANの永井船長にガイドを頼む事になったんだよね。船長との初めましての時の印象は、朝イチに泊まってた宿に迎えに来てくれた時だったんだけど、やたらと真っ黒な爽やかなサーファーのあんちゃん！！みたいな感じだったと思う 笑。確か「あれ？先月位にも西表島に来てましたよね？目立つんで覚えてました！！」みたいな会話をしたのを覚えてる 笑笑。で、ワクワクしながら船長の操船するカヌーで西表島のジャングルを流れる小河川を上流に向かって釣り進んで行ったんだけど、それでも俺のデカイルアーでは釣れなかったのよ！！涙。

確か11月頃で島が秋から冬に切り替わって行くタイミングの時期で北風ビュービューで状況も良くなくて悔しい思いをしたんだよね。でも、その時の船長の緩い感じの1日ガイドを気に入った俺は年を越して春に再び西表島に渡ってリベンジしに行ったんだけど、俺の釣りのスタイルでは悲しいかなまたまた釣れず…笑。船長も「すいません」みたいな感じになってたんだけど、俺的にはこうなったら釣れるまでトコトン通ってやる！！ってなって、そんな面倒臭い釣りのスタイルの面倒臭い俺にトコトン付き合ってくれる船長にも幾ら仕事とは言え「ありがてぇなぁ〜」なんて感情も芽生えつつ、初めて船長にガイドを頼んでから10カ月後の4〜5回目の釣行にしてやっと結果が出たんだけど、これがイキナリ53CM位の大物で俺の釣りのスタイルで狙える魚としてはチョー素晴らしい合格点のマングローブジャックだったんでカヌーの上はもう大騒ぎ！！この時の魚は釣り人生の中でも1〜2を争う感動と喜びで手が震えたのを覚えてる 笑笑。しかも1匹釣れたと思ったらその後は良型のジャックがガンガン釣れる様になって、最初の1匹を機に通い続けてる5〜6年でマングローブジャックが釣れなかった事は一度もなくて、ナンだか釣れない中でもメゲずに一年以上通いマクってたら西表島が「しょうがねぇなぁ〜」って認めてご褒美をくれたんじゃねぇか？って今でも思ってんだよね！！笑笑で、この最初の1匹を釣った夜に初めて船長と祝杯を上げて色んな話をして、この辺から川での釣り以外にも海での釣りの楽しさも船長に教えて貰って1Mを越えるシイラを釣ったり、またまた俺の面倒臭いスタイル（ベイトタックル＆トップウォーターONLY）にトコトン付き合って貰ってカスミアジやらバラフエダイなんかの最高の魚にも出会わせ貰ったりして、本当にこの辺の時期を境に俺の中で西表島は大好きで大切な場所になって行ったんだよね。

トコトン向き合って勝負をし続けたらチャンと答えてくれた西表島の大自然とマジで面倒臭い偏屈な俺を色眼鏡で見ないでトコトン付き合ってくれた船長。そして船長のお陰で知り合う事が出来た西表島の友人達！！マジ、俺にはこういう居場所がなかったなぁ〜って最近つくづく思うのよ。まぁ、島の人達からすれば俺なんてヨク来る観光客の1人でしかないと思うんだけど、それでも「オメさんが来てるからチョット顔でも見に行っとこうかな？」とか「港でいつものドレッドの人が来てるの見掛けたよ」みたいに、イチ観光客の俺を面白半分でも気に掛けてくれる人達が居るだけで俺的には十分嬉しいし、また島に行こう！！って思わせてくれるんだよね。

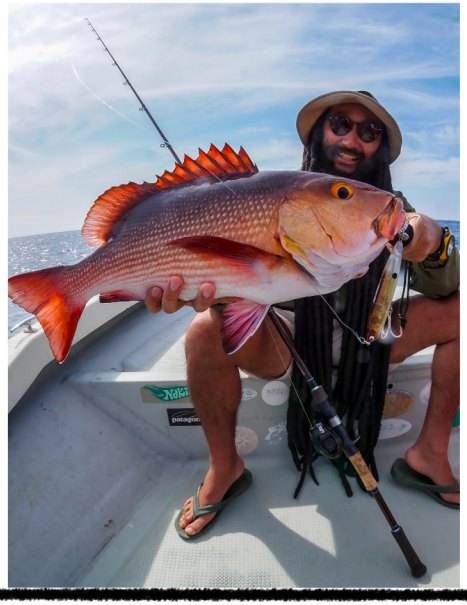
Mangrove Red Snapper

この島にはもっとヤバイ奴が潜んでんだよ。
その片鱗を少しでも垣間見れた野郎はみんなこの島の虜になるはず。
俺だけじゃねぇんだよ！本能の問題だ。
骨が無茶苦茶硬まってんだ!!
Mangrove Red Snapper

Iriomote Island Surface game

Red Snapper

Napoleon-Lippfish



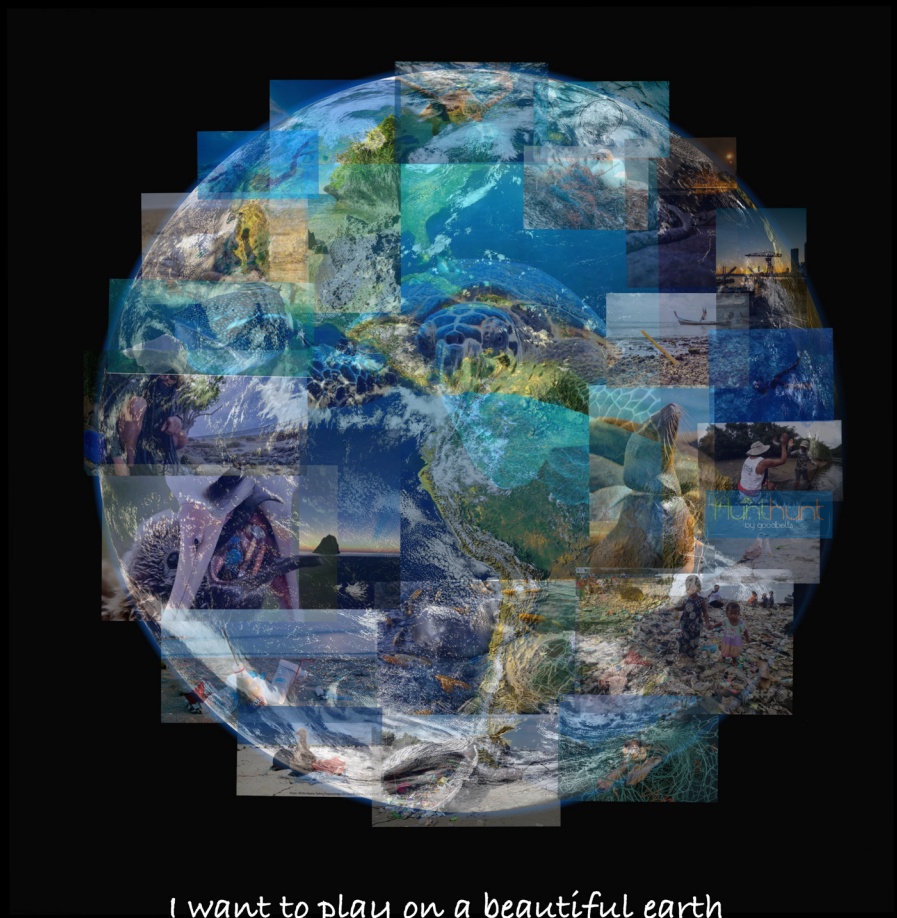
Bluefin Trevally

Iriomote island

今思えば、千葉で無駄に気張って吠え続けた結果、慕ってくれた若いヤツ等は居たんだろうけど敵ばかりが増えて、しまいにゃ対等で純粋な友達みたいな存在が俺にはずっと居なかった気もするし、損得抜きで純粋に腹から大笑いする事も出来なくなってた気がする。千葉を愛し自分の方法論を突き通す事ばかりに固執し過ぎて気付いたら一人ぼっちになってたんじゃないかな？強さと弱さも履き違えてた気がするし、他人にも自分にも優しくなれなくなってた気がする。だけど、そんなガチガチに凝り固まった俺の生き方を西表島の大自然と西表島で知り合った人達が物凄くノンビリ緩くなんだけどほぐしてくれた気がする。そのお陰で以前よりは先入観なく誰とでも話せる様になって来たと思うし、前々からヨク言われてた俺独特の嫌な空気も随分と消えて来たんじゃないかな？なんて自分では思ってる 笑。マジ、そういう意味でも西表島には本当に感謝してるんだよね。

しかしまぁ人生も何がキッカケで変わるか？本当に分からないモン。俺の場合はどちらかと言うとなるべく人混みを避けて、人と関わる事が少ないであろう果ての果ての大自然が溢れる西表島に辿り着いて、ノンビリと釣りが出来れば良かっただけなんだけど、まさか人を避けてた先で先入観を持たない人との出会いとか人の温かさとかに触れられちゃったんだからラッキーだったと思うんだけど、そういう出逢いを引き寄せられたのは、やっぱり自分自身から動いて興味ある世界に踏み込んで行けたから。そういう年を重ねて忘れかけてた基本的な事の大切さってのも40代後半になって再確認出来たのは未だに衰えない色んなモノに対する興味と好きな物事に対しての貪欲な探究心だったりすると思うから、このZINEを見て何かしらに興味が湧いた人は是非気になる物事に純粋な気持ちと礼儀をわきまえて勇気を持って踏み込んでみて欲しいなぁ〜って思う。変に自分はこう！！って決め付け過ぎずに色んな角度から人や物事を見てみて色んな可能性を楽しみながら模索してみた方がイイんじゃないかな？って、好き勝手に生きて来たとっちゃん坊やの俺が40代最後の年に思った訳よ 笑笑。大丈夫！！熱い情熱と礼儀をわきまえていればドコに行って何をやったって笑顔で充実した時間を過ごせるはずだから... でも最後にはチャンとテメーのケツはテメーで拭ける人間に着地する事が大前提ってのは忘れずにね。自由に生きる事と無責任に好き勝手生きるのは全くの別物だから...

最後に多少無理してでても行きたい！！って本気で思える場所にはナンとか頑張ってでも行った方がイイと思うし、やりたい！！って本気で思える事があるならばトコトン挑戦しといた方がイイと思う。もし上手く行かず失敗したとしても、それが心底本気の物事だったら絶対に人生のプラスになるから... でも勘違いしちゃイケないのは、その物事に対してあくまで心底本気だったらの話ね。それがタダ単にいっ時の欲を満たす為だけの物事だったり、周囲や時代に流されてるだけの浮ついた感じだと、後で欲を優先して無理をした分の3倍返しで苦労がやって来ると思うけど... 俺の経験上ね... 笑笑。でも人生は一度きり！！決めるのは自分！！若い頃の可能性も無限！！俺は若い頃に地元に拘り過ぎてあんまり色んな所に足を伸ばさなかったタイプなんで、若い子達は動ける内に色んなモンを見ておいた方がイイと俺は思います。勿論、俺と同じ初老の同年代の人達も気力と体力が痩せ細る前に旅に出ましょう！！ヤレなくなる前に挑戦してみましょう！！絶対に笑顔の数も増て来ると思うんで...



#綺麗な地球で遊びたい

I want to play on a beautiful earth
#綺麗な地球で遊びたい

物心がついた時には近所の裏山や川や海で遊びマクってた。てか、来年には50歳になるクソ爺だけど未だに川や海に釣りをしに行く事ばかり考えてる。正直な話、酒や博打、オンナ遊びなんかより外遊びしてたい。STREET JUNGLEよりも西表島のREAL JUNGLEの方が好き。
暗闇の動物よりネオン街の人間の方が恐い。
大都会の夜景も魅力的だけど島の夕陽や星空、紫やピンクに自然と変化する朝焼け空の方が俺のハートには猛烈に響く。
マジで地球ってでっかくて綺麗でやたらと感動させてくれる魅力的な星。

だけど、チョット場所を変えると物凄ぇ悪臭を放つゴミや透き通る蒼い海の海岸線に人工的なゴミが流れ着いてたりする。海の生き物達は自然に還らない人工的なゴミに絡まり自由を失い、しまいにゃ確実に身体に害を及ぼすであろう消化される事のないプラスチックを平気で口にして力尽きて行く。俺達人間はいつまで地球の支配者気取りで自然の理を無視しまくって自分達の住む愛すべき地球を癌細胞の様に蝕んで行くのかね？

まぁ余裕のないクソ忙しい毎日の中で、そんな事言われても... って言う人が居るのも分からなくはないし、実際に俺もヨク分からねぇんだけど、ワザワザ高い金払って足繁く島に通ってるのに青い空と蒼い海の間にペットボトルやらビニール袋がプカプカ浮いてたら雰囲気台無しだし、そのビニールを海亀や魚達が口にしてるのを実際に見ちまった日にゃテンションはガタ落ちな訳よ。
やっぱり綺麗な地球で遊びたいじゃん！？
綺麗な海や川で釣りがしたいじゃん！？
もっと言えば綺麗な地球を自分達の子供や孫達に魅せてあげたいじゃん！！

だから、小さな事からでもイイからみんなで少しづつでも意識を変えた方がイイって本気で思うんだよね。実際ビニール袋もペットボトルも日常生活ではスゲー便利なモンだから今すぐ無くなったら正直困るんだけど、だからと言って無駄に作って適当に捨てんのはヤメようよ！！って話。
チャンと分別してリサイクルさせようぜ！！
無駄にテイクアウトのコーヒーにプラスチックの蓋しなくてイイと思うし、
無駄にブッといストローでタピオカ飲み歩きしてそこら辺に捨てたりしないで
店で飲んでゴミを捨てるとか、タンブラー持ち歩いてゴミを少しでも減らそうよって話。

正直な話、俺はスーパーに買い物行く時にエコバックとか持って行くの忘れちゃうタイプだから本当に偉そうな事は言えないんだけど、出来ないタイプだからこそ、国や自治体、大きな企業なんかにプラスチックやビニールに替わる地球に優しいモノを作って欲しいし、
そういうモノにもうチョイ税金を回してもイイと思う。
もし今ある税金が使えないって言うなら、プラスチックやビニール袋なんかにも
環境税を上乗せしてもイイから、代替え品を開発する所や環境保全の為に金を使って
俺みたいな人間がもっと地球に優しい生活を送れる様にして欲しいんだよね。
なんか自論の他力本願で本当に申し訳ないんだけど...
タダ俺は綺麗な地球で遊びたいし自分の子や孫に綺麗な地球を魅せてあげたいだけなんだよなぁ...
流行りでもナンでもイイから少しecoを意識しない？
イヤ、マジで...

海沿い

窓を開け走る海沿い
風を感じながら
握るハンドル、アテもないまま
鼻歌歌ってる
面倒臭ぇ日々の痛みも
今は忘れちまって歌ってる
プラリ１人だけお構いなしに
腹の底から声だしていたい
海沿いの道は俺にとって
痛みを洗い流してくれるんだ
タマに渋滞してるとイラつくが
それはそれで受け入れて遠回り

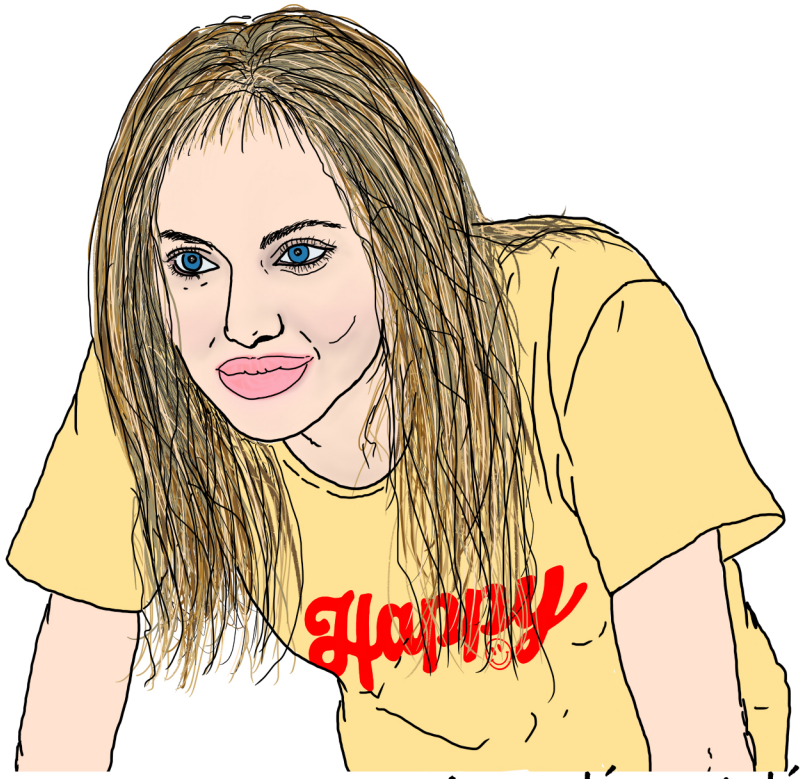
こんな海沿いの街並み
ガキの頃から変わらず繰り返し
行ったり来たりで染みついた
潮の香りがマジで誇らしい

晴れ渡る朝、上げるテンション
陽射しを浴びながら
潮の香りが漂う街で
鼻歌歌ってる
照りつける太陽の恵み
足速な日常も照らしてる
自然と笑みがこぼれる俺達に
小さな幸せを噛み締めてる
海沿いの道は俺にとって
痛みを洗い流してくれるんだ
タマに潮風やたらと厳しいが
それはそれで受け入れていつも通り

こんな海沿いの街並み
ガキの頃から変わらず繰り返し
行ったり来たりで染みついた
潮の香りがマジで誇らしい

風が薫る海沿いの街
色々あったから
年を重ねて穏やかに今
鼻歌歌ってる
擦り切れる程に傷付けた
大事な人達の微笑ましい
何気ない日常が幸せと
今は気付けた事が素晴らしい
海沿いの道は俺にとって
痛みを洗い流してくれるんだ
タマに浮かれたガキ等に苛つくが
自分の時よりマシか？と大笑い

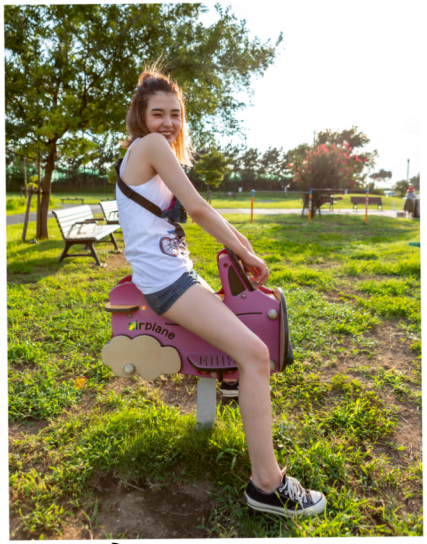
こんな海沿いの街並み
ガキの頃から変わらず繰り返し
行ったり来たりで染みついた
潮の香りがマジで誇らしい



Angelina Jolie

Girl, Interrupted

初めてアンジーを知ったのは映画「17才のカルテ」で精神病棟に入院してるイカレた女の子リサ役。確かこの映画で数々の賞を総ナメにしたんじゃなかったっけな？とにかく可愛いんだけど役柄的には小悪魔的な感じでナンだか危ない目つきでパンチ効いた娘だなぁ〜って印象だったんだけど、その後の女優としての売れっ子っぷりもハンパなかったよね。

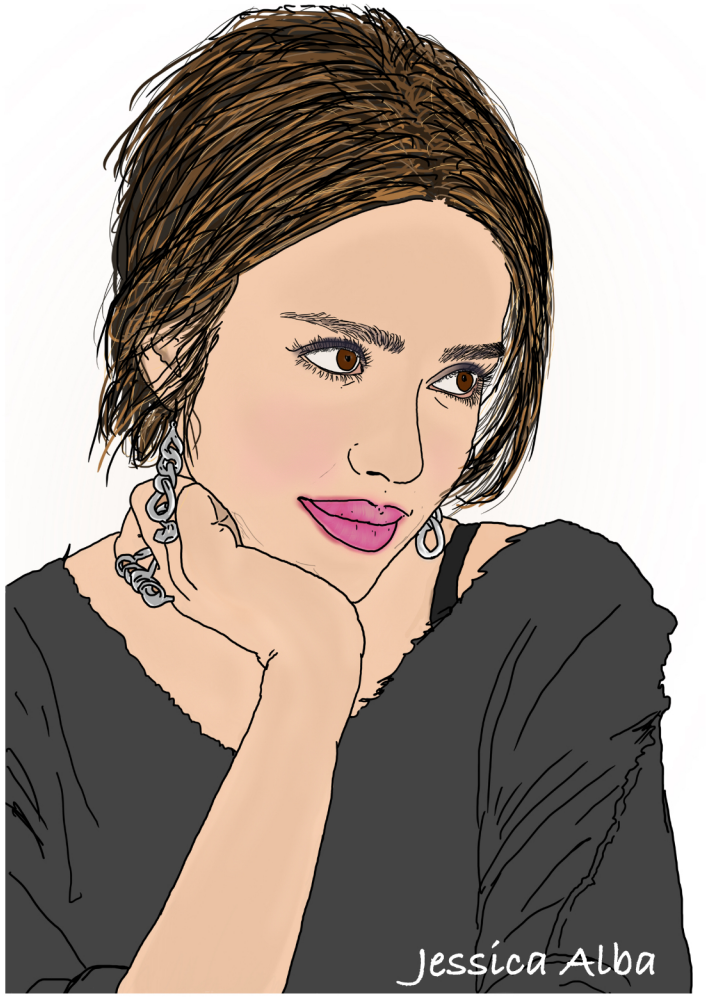


#てなphotos

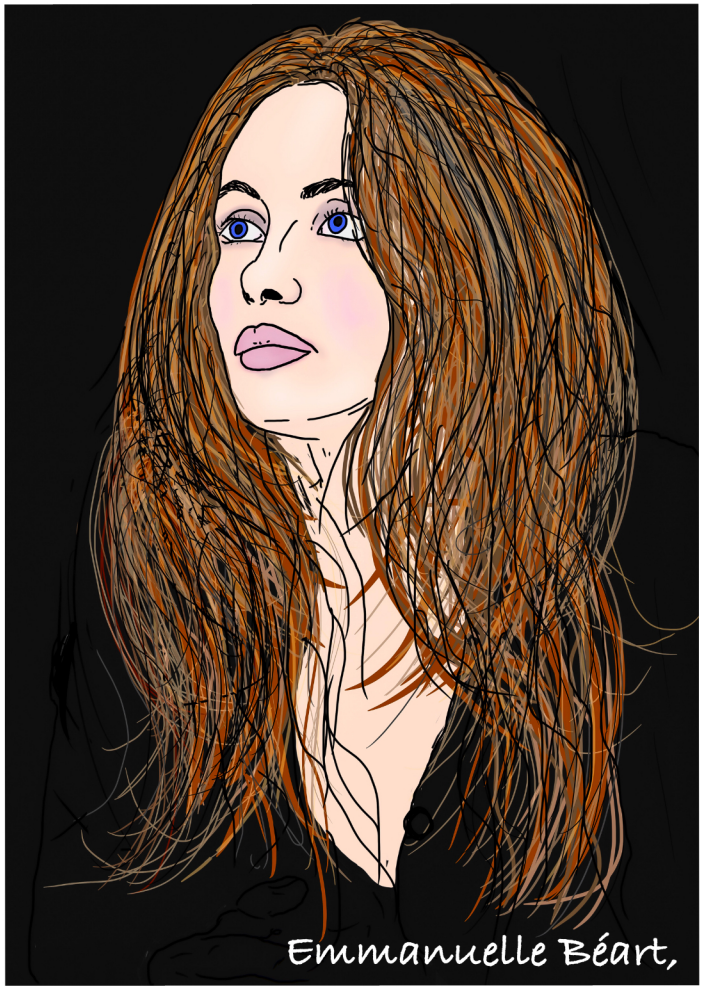
#mista12photo

#てなphoto

#mista12photo



俺の中では言わずもがなのお気に入り女優ジェシカアルバ。海外ドラマがレンタル屋に出始めた頃に観た「ダークエンジェル」でスッカリと虜に…旦那さんが冴えない感じなのも高感度高い…笑笑
とにかくジェシカアルバに関しては、演技どうこうよりも純粋に俺のタイプで可愛いかったんだ！！



ガキの頃にタマタマ観た映画の中で無茶苦茶エロ可愛いく輝いてたエマニュエルベアール。モノ凄く可愛いのにガンガン脱いでたりしてて誰でも知ってる様な有名な映画には出てなかったイメージがあったんだけど1996年のトムクルーズでお馴染みの「ミッションインポッシブル」に出てるのを知らずに映画館に観に行って見つけた時は凄ぇテンション上がった。大好きだったフランスの女優さん。

Brittany Murphy

ある程度HIPHOPをチャンと聴いてた人間なら殆んどの人間が観てるであろうEminem主演の映画「8Mile」のヒロインでお馴染みのブリタニーマーフィー。俺的にチャンと認識したのも「8Mile」だったんだけど先にもアンジーで紹介した「17歳のカルテ」にも出演してたらしい。色気と危うさのある感じで好きだったんだけど2009年に32歳の若さで亡くなってる。心不全らしい。R.I.P

Jennifer Hudson

ホイットニーに続く国歌斉唱でヤラレたジェニファーハドソン。日本では2007年に公開されたミュージカルの映画化「ドリームガールズ」でビヨンセとかジェイミーフォックスと共演してズバ抜けた歌唱力を魅せつけてアカデミー助演女優賞を取ってたよね。とにかく2009年のスーパーボールの国歌斉唱を観て欲しい。マジで痺れるから...笑笑

金を出しゃ大抵のモンは買える。
だけど積み上げた経験や滲み出る空気感ってのは金じゃ買えない。
でも金は大事。本当に大事。
でも、あくまで自分が追い求めるカタチに辿り着く為に必要なtoolであって目的じゃない。
「綺麗事じゃねぇコイツ？金があればナンでも出来んじゃん！！」って思うヤツも多いだろう。
まぁそういう部分は確実にあるから、そう思うヤツはその価値観で進めばイイ。
俺は邪魔もしなけりゃ否定もしてない。
だけど俺はそういう価値観に縛られた生活から得る着地点を目指してないんだよ。
人にもモノにも方法論にも自分なりに思い描くカタチと拘りがある。
だから金の稼ぎ方や金との関わり合い方にも拘りたいし、実際に金で買えない様なモンに無茶苦茶魅力を感じてる。
マジ、人生ってさぁ案外と短い。
だから充実した毎日を送りたいし、金に振り回されないで楽しめる独特の価値観ってのを大事にしたい。
自分の欲求を金に支配されずに自分でコントロールして楽しく生きたい。
その為に金が必要だって言うなら自分の方法論で納得出来るように金もガッツリと稼ぎたい。
金が目的じゃなくて自分の方法論としての評価と対価を得る為にもね。
「何言ってんだコイツ？」ってなってるヤツも居るのかな？笑
まぁ、しょうがない。
俺、偏屈な凡人だから… 笑笑

違ッタ角度

自分を表現したい。自分の可能性を信じてみたい。
自分が熱くなれるモンをトコトン追求し続けたい。
流行り廃りなんて関係なく自分がコレだ！！って思えるモノに胸を張りたい。
いつか今よりももっと自分の存在を知って貰いたいし世の中に認めて貰いたい！！
って幾つになっても熱い情熱を持ち続けながら
日々を過ごしてるヤツが確実に居る。
だけど、夢中になれる物事や大事に思える事ってのは年齢と共に少しづつ変化して行ったりする。だけど変わる自分、変わって行く自分を認められない自分もいる。
また、そういう変化を認めようとしなかったり馬鹿にして来る傾向も
俺の周りやSTREETには何気にある。
そりゃ1つの物事をトコトン極めて生涯突き通せるヤツは
本当にカッコイイし魅力的。
だけど年齢を重ねて行く過程で自分の肩にのしかかる責任や道理みたいなモンを
無視出来なくて今まで通りに物事を突き通せなくなる瞬間ってのが
誰にしも必ず1回や2回出て来るモン。その時、自分の気合いや情熱だけじゃ
解決出来なかったり背負い切れなかったりする事もあれば、
今までの価値観を覆す様な出会いや別れに遭遇する事もあったりする。
そういう時みんな今までの自分の発言や行動に良くも悪くも縛られて思い悩んだり
開き直り真逆の行動に走ったり、時には逃げ出したりしちゃうヤツも居る。
まぁ、俺も以前のジャンルでの音楽での表現方法の中で色んな疑問や怒り、
ナンとも言えない絶望感や憤りを感じて、敢えて自分からマイクを置く選択をした
タイプなんで気持ちは分からなくはないんだけど、
タダ、最初に書いたみたいに自分を表現し続ける事を諦めたくないし、
言いたい事を言うだけ言って着地点も示さずにやり逃げしちまう様な野郎には成りたくねぇ！！って本気で思って今の方法論でこのZINEを作ってたりするんで、
自分の道理や情熱の根本は何も変えずにモノの見方や物事の角度を少しづつ変えて
今の自分を表現する！！って事をチャンと魅せたいんで、
そういう風に自分の大事な根本を守りながら悩んで足掻いて
今までとは違う方法論で頑張ってるヤツを紹介したいと思うんで
是非何かを感じ取って貰いたいです。

檜垣利昭

Ashtanga vinyasa yoga

Birth date October 16, 1986 Blood type is b

日本書紀には「スギとクスノキは舟に、ヒノキは宮殿に、マキは棺に使いなさい」って書かれているらしい。ヒノキは古くから宮殿建設用として最適で最高の材となることが知られていた。「ひのき」という名の由来は「火の木」の意味で、古代に火おこしに使われたという説と尊く最高のモノを表す「日」をとって「日の木」という説もある。
そんな「檜」のひと文字を苗字に持つ檜垣利明。昔はG-STARって名乗りマイクを握りRAPをしてたんだけど、当時は泣かず飛ばずのLOCALラッパーの一人だったトシアキが数年前からyogaを始めて生活が激変した。一時期はyogaにハマり過ぎてSTREETでマイクを握って来た自分と今のスタンスの自分とのギャップに相当苦しんでたみたいなんだけど、最近は自分なりに色んなモンを消化してyogaが新たなる自己表現を追求出来る為の武器として生かせるまでになって来たらしい。
そんな、ある意味マイクを握ってた頃とは真逆の生活の中で色んな物事を色んな角度で見る事が出来る様になったトシアキの思考と鍛錬と野望に興味があった俺が、まだ一般的には何者でもないトシアキにスポットを当てて写真を撮りながら色々と聞いて来たんで、このZINEにFEATURINGしてみました。
飛ばず泣かずだった10代20代を過ごして来た中で30代でyogaと出会い、自分の中に「檜」の様な最高の材（才能）を見つける事が出来たトシアキ。そんなトシアキの思考と鍛錬と野望がこのZINEを見る人達にどんな感情とYELLを贈る事が出来るのか？俺的には非常に楽しみだったりするんで、俺の思う自分の中に在る根本は変えずに角度を変えて物事を見ながら、また違った表現方法で勝負し続ける！！っていうコンセプトとリンクして面白いモンになってたら嬉しいなぁと思ってるんで是非「何か？」を感じ取って貰えたら幸いです。

@toshiaki_1986

檜垣利昭
Ashtanga vinyasa yoga

僕は農家の両親をROOTSに成田市の久住っていう無人駅の寂れた街で育ちました。
都心部の人から見たら引く位の山の中で育って、小中高の頃は何処にでもいる不良でも無ければ真面目でもない
物凄く中途半端なガキんちょでした。
小4から高3までは野球ばっかりやってたんですけど、まぁ実力は下の中くらいで本当に微妙極まりないヤツだったんですよね 笑笑。
で、18〜19歳くらいの時にオメリさん達と関わり合いの深いTHE MATERIAL WORLD（SELECTS SHOP）が成田に出来たじゃないですか？マジでマテリアルがめちゃくちゃイケてて仲間内で頻繁に通うようになって店長さんとチョコチョコとクラブ行ったり飲みいったり遊んで貰える様になって、その流れでオメリさん達のやってたKINGDOMRECORDSの人達やイケてる先輩方と出会い、
某先輩が経営してるキャバクラで先輩方からRAPやれよ！！って流れになって
気付いたらG-STARって命名されてラッパーになってました 大笑。
でも、折角マイクを持って人前で主張するなら地元の成田で自分の存在を残したいなぁって
本気で思ってガムシャラにLIVEをさせて貰ってました。
不良でもないし、真面目でもない中途半端な僕でもRAPっていうツールを使って自分を表現したかったし、
生まれ育った地元成田でナンとか足跡を残したかったんですよね。
しかもRAPを始めた頃に友達の付き合いで都内のイベントに行った時、DJのクラブプレイのSIDE MCをした事があったんですけど、
その時にイベントのオーガナイザーに「田舎だと陽の目浴びないよ？」って言われて、
「コイツ千葉舐めてんな！？」って結構ムカついて僕的には「HIPHOPって地元でやるからカッケーんだよ！！」って
本気で思ってたし、地元でやってる先輩達の背中にメチャクチャ憧れていたんで自分もそういう風になりたかったんです。
でも、色々とあって一緒に始めた仲間がヤメたりしたんですが、僕的には人に堂々とコレって言えるモノが何一つなかったんで、
簡単にはヤメるっていう選択が出来なかったし、人前に立ってスポットライトを浴びれる場所を手離したくなかったんですよ。
だから一応ソロで2〜3年位頑張ってやってはみたんですけど全然ダメでしたね 苦笑。
なんだかタダやってるだけだったし、その頃の僕って本当に駄目ダメでRAPをヤメちゃったら何も残らないと思ってたんですけど、
結局中途半端なダラダラな消化試合みたいなライブを続けちゃってて、LYRIC（歌詞）も全然書けないから曲は作れないし、
始めた頃の気持ちよりも酒飲んで馬鹿騒ぎしているだけの何もない自称ラッパーって事に気付いちゃって、
自分自身で何がしたいのか？完全に分からなくなって結局辞めちゃいました。
マジで最後の方は無理矢理続けてた感じの方が強かったんで、
マイクを置いた時はナンだかやたらとホッとしたのを凄く覚えてます。

丁度RAPをヤメたくらいのタイミングですかね...
借金がドンドンと増えて金はないのに物欲は凄い、更に何をやっても全然満たされなかった時期に
ミニマリスト（最小限綱領派と訳す。最小限度の要求を掲げる社会主義者の一派）って言葉をテレビなんかで良く耳にするようになって、なんだそれ？って興味が出て自分なりに本読んだり調べたりしてたら、
無い物ねだりで物を増やしてた自分と真逆の引き算の考え方みたいな生き方にやたらと
感銘を受けて自分なりに深い所までDIGったら禅やヨガや菜食生活等に辿り着いて、
とりあえず見様見真似でその辺を真似し始めたのがヨガとの出会いなんです。
それで、僕自身はヨガとの出会いで色んな事が物凄く変わって来たんですけど、
目に見える所だと体型だったり、夜型だった生活習慣が真逆になりました。
以前は夜遊びして朝寝るっていう生活パターンが基本だったんですけど、
スッカリと早寝早起きになりましたね。
タバコも辞めれたし、食事もジャンクフードが大好きで野菜嫌いな典型的なタイプだったんですど、
食の好みも段々と変える事が出来、今では玄米や菜食を中心とした食生活にすっかりと変わりました。
最初の頃は色々とトライ&エラーを繰り返してツライ時期もあったんですけど、
自分の身体の声に意識を向けられるようになって来て身体の調子が良くなり、
精神的な部分にも大分余裕を持てる様になって来ました。
そんな感じで自分はヨガにドップリ浸かって行く様になって随分と充実した毎日を送れてるんですけど、
自分の周りやSTREETで知り合った人達の中にはヨガ自体に偏見を持ってる人も
何気に少なくないと思うので、そこら辺の人達の誤解も解きつつ
良い意味で色んな人達を巻き込んで行きたいなぁって思ってるんですよね。

最後に、僕はアシュタンガヨガと出会ってネガティヴな思考から抜け出せたと思うし、身体も健康になれました。日々の生活に明確な目標を持てる様になれた事でメチャクチャ人生が楽しくなったし、毎日のプラクティスが楽しみでしょうがないです。
本当にヨガは素晴らしいモノだと僕は確信しているので、出来ればより多くの人に知って貰いたいし体感して欲しいなと思っています。

RAPしていた頃に出来なかった事をアシュタンガヨガというツールを使って地元成田や千葉を盛り上げて行けたら最高ですよね？

なのでSTREETでの挫折や経験をROOTSとした根本を忘れずに、今まで自分が見て来た景色とは真逆の伝統的なアシュタンガヨガをキチンと学び、自身でチャンと体感して、その素晴らしさや魅力をキッチリと伝えて行けるヨガの指導者になりたいと今は思ってるんで、その為には自分自身も怠ける事なく強い意思を持って日々精進して行きたいと思ってます。最近は日頃お世話になってるスタジオで指導者としての活動も始めてるので興味がある方は是非声を掛けて下さい。
ありがとうございました。

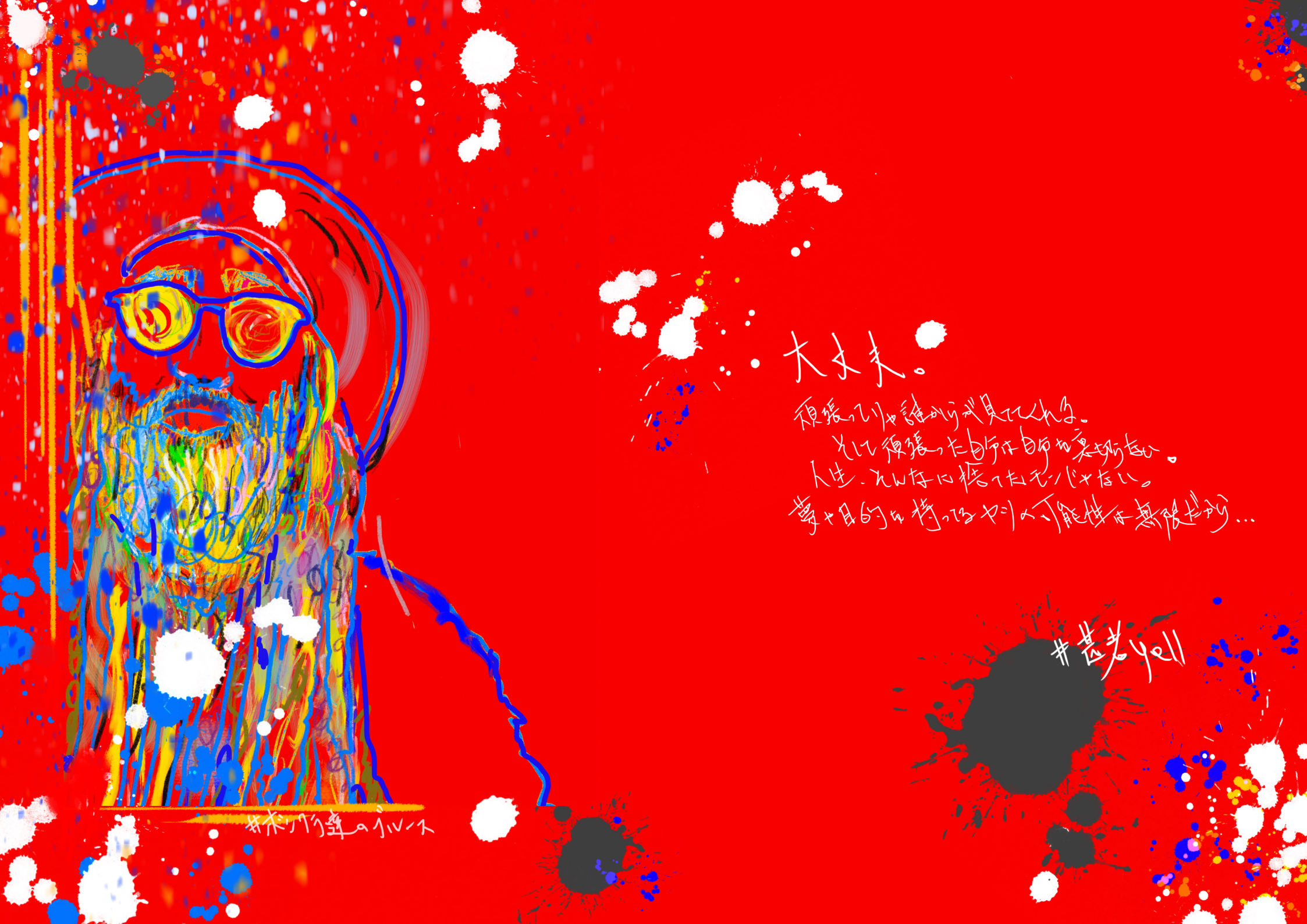
檜垣利昭

Ashtanga vinyasa yoga

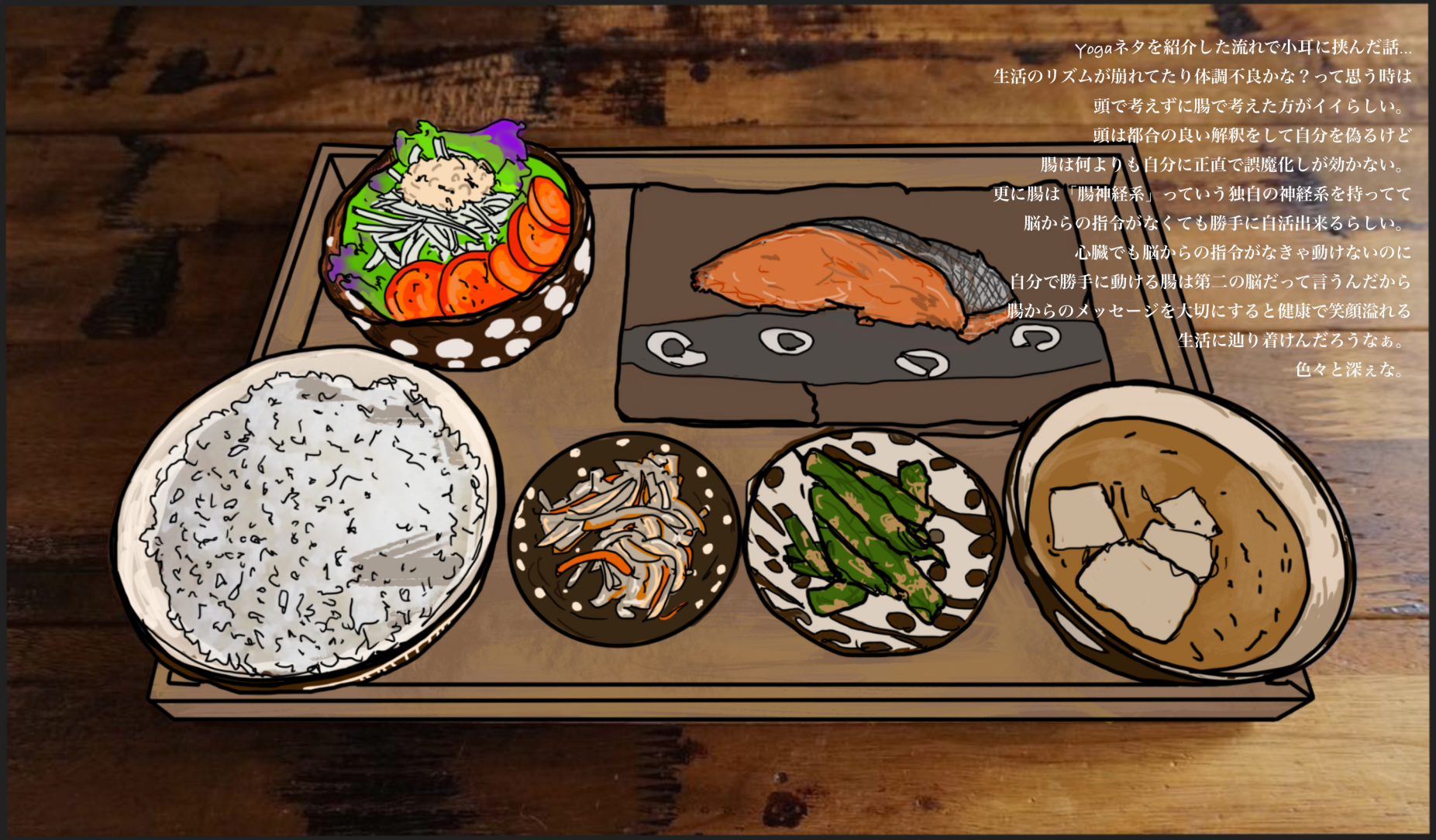
斜ッタ角度

色んな人間が色んな分野で凌ぎを削って日々足掻いてるんだけど
月日が経つにつれて表現の仕方やアプローチの仕方に変化が生まれて来たりする。
一つの事を生涯突き通して終われたら幸せなのかどうか？は俺には分からないけど
突き通す事が出来なかったり、突き通す事に疑問を感じて新たな道を切り拓く事もまた人生。
大事な事は表現方法やジャンルじゃなくて自分自身の中にある道理や信念を貫き
どう生きて？何を遺せるか？だと思うから
迷い傷つき挫折する事があっても違った角度から物事を見れる広い視野と
自分の内に在る情熱や溢れ出す感情を大切にしていれば
また違った才能が目覚めたりするモノ。
だから挫折自体を嫌なトラウマで終わらすか？次へのステップとしての足掛かりに出来るか？は
結局自分自身の気持ちの持ちようだと思うから
自分の中に在る大事なモンを信じてムチャクチャ真剣に人生を歩めれば
きっと幾つになっても本気で笑えるんじゃねぇか？って
今回トシアキにインタビュー的なノリで色々と聞いて俺はつくづく思ったかな。
ベタベタなんだけど人生諦めたらそこで終わり。
ツライ時期、人目に触れない時間に何をして？どう生きるか？で
俺達の人生の彩りはまるっきり変わって来るって事。

さて、お前ならどう生きる？


大丈夫。
頑張っていれば誰かが見てくれる。
そして頑張った自分は自分を裏切らない。
人生、それに捨てたモンじゃない。
夢や目的を持つヤツへの可能性は無限大だ!
#青春yell
#ポリタン森のシルエット

キチハリの飯



Yogaネタを紹介した流れで小耳に挟んだ話...
生活のリズムが崩れてたり体調不良かな？って思う時は
頭で考えずに腸で考えた方がイイらしい。
頭は都合の良い解釈をして自分を偽るけど
腸は何よりも自分に正直で誤魔化しが効かない。
更に腸は「腸神経系」っていう独自の神経系を持ってて
脳からの指令がなくても勝手に自活出来るらしい。
心臓でも脳からの指令がなきゃ動けないのに
自分で勝手に動ける腸は第二の脳だって言うんだから
腸からのメッセージを大切にすると健康で笑顔溢れる
生活に辿り着けんだろうなぁ。
色々と深ぇな。

キチハリ飯　キチハリ山

オチリ家住民達

ワンコ派とかニャンコ派とか言う人達が居るけど俺的には意味不明。

ワンコでもニャンコでも代わりが居ない唯一無二の最高に可愛い存在じゃない？

まぁ見た目や性格的な好みはあって当たり前だけど、そんなのはワンコでもニャンコでもそれぞれ性格は違うんだから流行り廃りでどっち派みたいな風潮はどうか？と思う。そんな事ばかり言ってるヤツに限ってブランド物を買うかの如く安易な考えでワンコやニャンコを家族に迎え入れたりしそうでチョット怖い。

マジ、ワンコやニャンコ達はオメーを着飾るアクセサリーじゃねぇんだよ。

一度家族に迎え入れたら最期の時を迎える瞬間まで共に過ごし、逝っちまった後の責任もチャンと果たす覚悟を持たなきゃイケねぇんだよ。だから自分の生活環境や年齢なんかもチャンと考慮して生涯生活を共にする覚悟を持って欲しい。マジで。

Ashtanga vinyasa yoga

@kjooklyn_manzoh

¥14,850

¥6,750

¥14,850

¥12,420

¥4,860

¥5,400

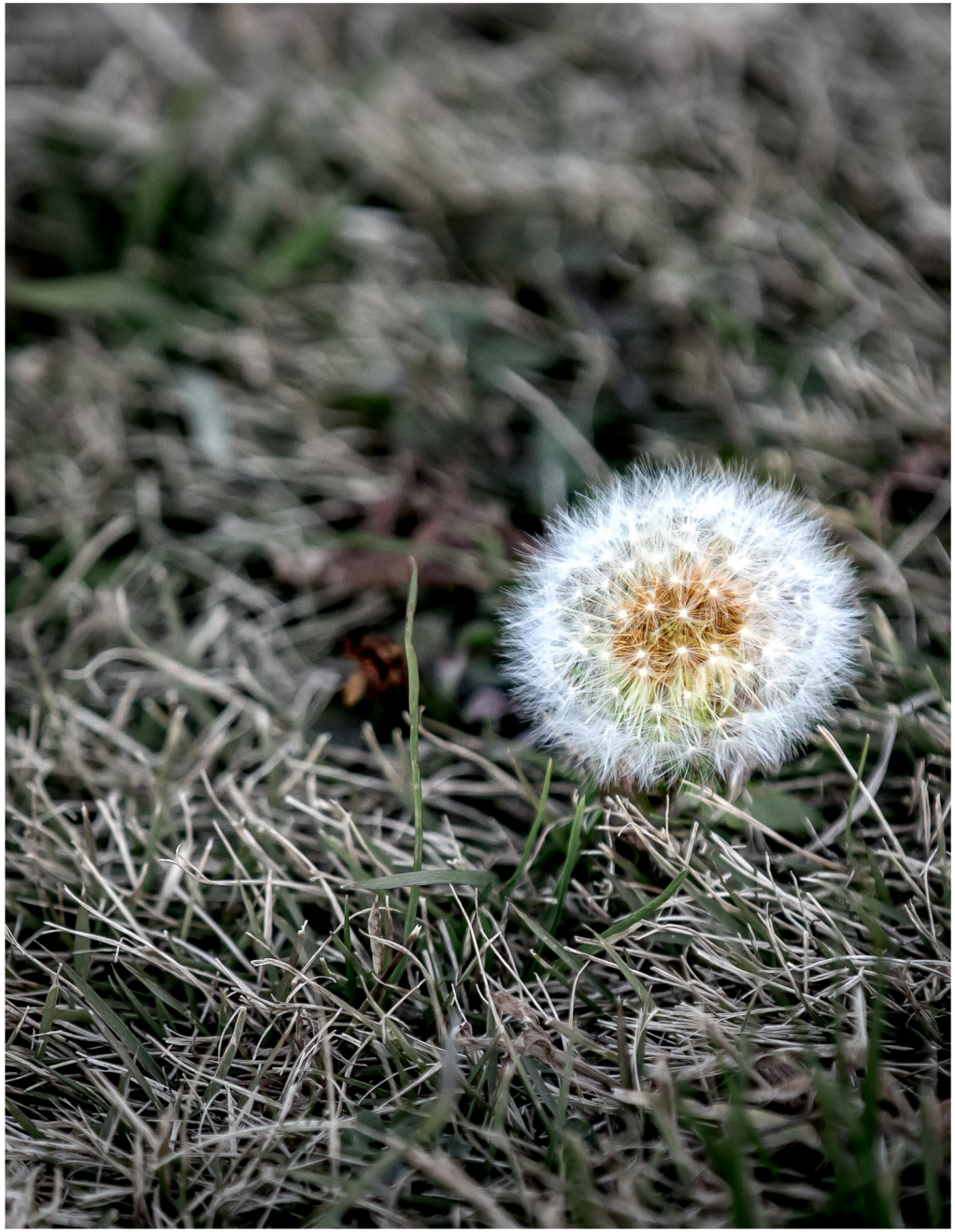
¥5,400

Hunt hunt
Coming soon

Hunt hunt
SOLDOUT

sample only

¥4,860



#mista12photo

LEMONCLUB

檸檬倶楽部

lemon

つくれるもの

イラストやロゴやデザイン全般

ウェアプリント（Tシャツやパーカー etc）

ホームページ

名刺 / ステッカー / ポスター / チラシ

パンフレット / ボールペン / タンブラー

マグカップ / 缶バッチ / カレンダー / のぼり旗

その他色々

-instagram-

@namekitakao

@_lemonclub_

OUTRO

自分が正しいと思って色んな人に伝えたいと思う事や変えたいと思う物事は
誰かにとっては鬱陶しかったり耳が痛い話だったりもする。
だから自分の中での揺るがない正義だとしても人に押し付けて主張しちまった時点で
きっとその正義は相手にとってはpeaceな事じゃないって最近になってつくづく思う。
その内容が本当に平和を願う事で殆どの人が賛同出来る様な事だとしても
理解出来ない人間に押し付けちゃったらpeaceじゃなくなっちまうんだよね。
そういう感覚が今までの俺には分からなかった。
ていうか、今でも正直理解し切れてないのかもしれない。
でも、確実に自分の感覚と真逆の価値観や真逆の道理を持つ人間は存在していて、
そういう人間は案外身近にも居たりするから、
どっちが正しくて、どっちが間違ってるとか言う話じゃなくて、
どっちも現実に存在する思想だったり思考な訳で、
そういう多種多様な人種や人格が入り乱れてる時代って事を知って
理解する努力が必要なんだなって思う。

だけど、時に人は自分が輝いていた時代の事や自分の得意な分野に固執し過ぎて
柔軟に物事を考えられなくなる。
自分の得意分野に引きずり込んだり引きこもって相手の話も聞かず理解をしようともしなくなる。
俺はこうだ！！私はこう！！俺の時代なら！！私の時は！！って自分主導の物言いを繰り返しちまう。
まぁ分かる 笑笑。多分、俺もそういう時期があったし、そういう自分で問題ないと思ってた。
それでも物事が成り立って人が付いて来ているなら自分の立ち位置が取り巻く環境の中で
必要とされてる証拠な気もするけど、どの道そういう頭の固さに自分自身が気付けないまま行けば
ダダの老害になって行くのは目に見えてるよね？
そうなっちまったら老若男女性別年齢問わず立派な老害。
年齢の問題じゃなくて20代でも30代でも 立派な老害。
だって、自分の得意分野の話にしか興味を示さないし、
良かった頃の自分の状態から前に進んでないんだから
自分の安全地帯に引き篭もってずっと思い出に浸ってる様なモンじゃん？
自分の得意なモンをトコトン追求して常にNEXT LEVELを更新しようとしてる人間なら
自分の得意分野以外の事にも興味を持って自分の中に取り入れて行こうとしてるはずだから、
そういう感じなら無茶苦茶カッコイイし、他人にも優しくなれてるだろうから
必然的に魅力的だと思うけど、他人の話を聞けなかったり、
自分の得意分野以外の事や誰かが 一生懸命やってる事をロクロク知ろうともしないで
上っ面ばかり見て最初から否定したりしてる様なヤツは、
結果的には真面目な話や新たな試みからは
ドンドンと離れた位置に追いやられてしまうんじゃないかな？
だって決めつけられて知った口きかれたら誰だって面倒臭えし
結果的にそういう人間は俺の事を知ろうともしてないって事だからね。
イメージで決めつけられる位なら自分の事なんか話さないし絡まない方がイイってなっちゃうよね。
若い子達なんて上の人間に対してこんな風に考えてる場合も多々ありそうだよね？苦笑

まぁなんだかんだで俺もそういう決めつけをイヤっていう程味わって来てるし、
自分自身もそういう決めつけをして来ちゃってたと思うから、そういうネガティブな感覚から抜け出して
頑張ってる人間とはジャンルや年齢性別問わずにチャンと繋がれたら嬉しいなぁって最近はスゲー思う。
まぁ礼儀と道理がリンクしてる事が大前提だから手放しで誰とでも！！って感覚は全くないけどね 笑笑。
でも色んな物事に未だに興味はあるから自分の知らない事は知りたい！！って思うし、
もしこのzineをまた作る様な事があるなら、俺の作るzineを通して感覚的な共通点や繋がりを見出せる様な
色んなジャンルの面白い人達をドンドン紹介して行きたいし、
自分自身も新たな繋がりを見出せたら嬉しいなぁって思っております。
VOL.2作れるかな？とりあえず乞うご期待！！
って事で今回は終わります。

ワザワザ手に取って最後まで付き合ってくれてありがとうございました。

YELL

強く熱く優しく心地良く吹き抜ける風の様に...
風の様に色んな国や街を訪れて
その土地やその街の人達が醸し出す風を感じ
その場に漂う空気や風の流れを読み
自分自身が作り出す風で
そこのその場の空気を優しく包み込み
自分に関わる全ての人達を良い方向に変えられる様な
強く優しい風を吹かせられます様に...

Mr.OMERI

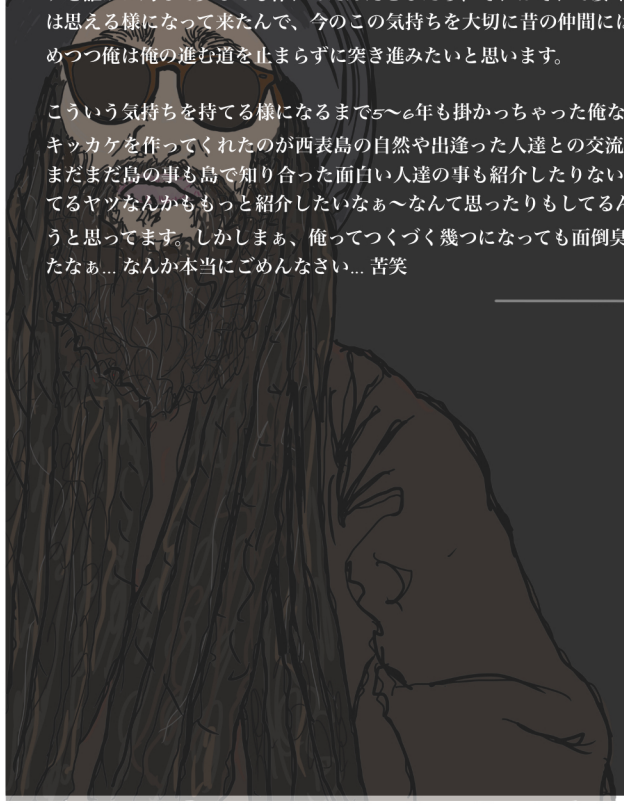
最後に...

INTRODUCTIONからOUTROまで色々と詰め込んで今の自分を表現したこのZINEを読み返してみてスデにチョット表現的なニュアンスが違うかな？みたいなのが何箇所か出て来ちゃってたりするんだけど、細かな事を言い出すといつまで経ってもカタチにならないし、基本的に何を作っても完璧とか納得行くモンなんて出来る訳もないんで、今回は一先ずこれで終わりにしようと思います。

昔の自分の発言や立ち振る舞いに多かれ少なかれ縛られてたんで、マイクを置いてからの数年は苛々が収まらなかった俺。実際に今でも自分の吐いた唾を飲みたくないって気持ちには確実に縛られてるし、当時積み上げて来た想いに嘘偽りがなかった分、色んなヤツの裏切りやあの頃拘っていたはずの想いを突き通さずに安易にやり方を変える昔の仲間達に苛立ちを覚えたりもしたんだけど、でも大好きだったヤツ等だったからこそ、結局は嫌いにもなれなくてナンともやるせない気持ちになってイジケてたから今も苛々してんだろうなぁ〜って自分で気付いちゃったりもしてるんで、つくづく自分の道理やスタイルを貫きながら笑顔溢れる着地点を目指しチャンと提示するっていう事の難しさをこのZINEを作って思い知らされ再確認するイイ機会だったかなぁ〜とも思っております。

色んなヤツが人生の寄り道の様に安易に近付いて来ては安易に俺の前を通り過ぎて行く状況をどうしても許せなかった時期が本当に俺は長かったんで、中々簡単には素直になれない自分が居たんだけど、ナンであれ、俺の放つメッセージに共感して色んな想いを奮い立たせるキッカケを誰かに対して少しでも作れてたんだとしたら、それはそれで凄く幸せな事だなぁ〜って最近は思える様になって来たんで、今のこの気持ちを大切に昔の仲間には出来得る限りのYELLを込めつつ俺は俺の進む道を止まらずに突き進みたいと思います。

こういう気持ちを持てる様になるまで5〜6年も掛かっちゃった俺なんだけど、ココに辿り着くキッカケを作ってくれたのが西表島の自然や出逢った人達との交流の中だったりもしたんで、まだまだ島の事も島で知り合った面白い人達の事も紹介したりないし、地元で面白い動きをしてるヤツなんかももっと紹介したいなぁ〜なんて思ったりもしてるんで第2弾も真面目に考えようと思ってます。しかしまぁ、俺ってつくづく幾つになっても面倒臭ぇヤツって再確認しちゃったなぁ... なんか本当にごめんなさい... 苦笑



Omeri Works

オチリ WORKS

甚者magazine #1

January 2020

Words, Illust, Photo : Mr.OMERI

Featuring : 檜垣利昭

Photo Model : てな

制作・発行 : Mr.OMERI

協力 : 1Q [檸檬倶楽部]

本書の無断複製、無断複写、無断デジタル化を禁じます